

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第11号—



新井田古館遺跡 縄文土器出土状況

いこさいく 入れ子細工の縄文土器 — にいだふるたて 新井田古館遺跡 —

深さ1m程のフラスコ状土坑の底から、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の深鉢形土器が3つ重なり倒れた状態で見つかりました。土器はほぼ完全な形を保っており、さらに口を合わせる向きでもう1点の土器が出てきました。3つの土器は入れ子状にきれいに収まるように作られていて、土器の文様やつくりもとてもよく似ています。ほかの土坑から、切断壺型土器や狩猟文系土器など変わった土器がみつかったことから、この土器も祭祀など特別な使われ方をしたのかもしれませんが。

（小久保 拓也）



SK28 出土土器（もしかしたらこうだった？）

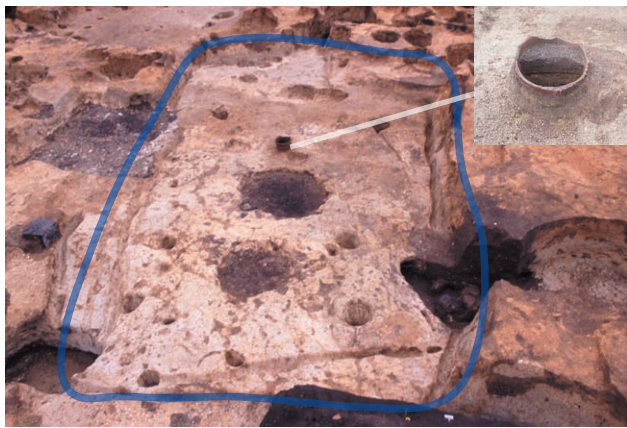
まつがさき 松ヶ崎遺跡

ひも
- 粘土の紐を貼りめぐらせた土器 -

松ヶ崎遺跡は八戸市庁から南東に直線距離で約4km、現在の八戸市斎場周辺に広がっています。遺跡は標高27～45m程の台地上にあり、晴れた日には市街地や太平洋を一望することができます。これまで14箇所の発掘調査が行なわれており、縄文時代中期（今から5,000～4,000年前）を中心とした大集落であることが確認されています。

昨年度に調査を行なった場所は、調査面積160㎡という家1軒分の広さしかありませんでしたが、縄文時代中期の竪穴住居跡4棟と20基近くの土坑が検出されるなど、大集落にふさわしい遺構数が発見されました。

これら4棟の住居跡のうち、3棟は縄文時代中期中葉、1棟は縄文時代中期終末のものです。中期中葉の住居の形は隅丸長方形で、住居中央に土器埋設炉が設けられています。



縄文時代中期中葉の竪穴住居跡 住居の形は隅丸長方形で、住居中央に土器埋設炉が設けられています。この住居では新旧2つの炉がありました。(右上は新しい炉の拡大写真)



縄文時代中期末葉の竪穴住居跡 住居の形は円形で、住居中央よりやや南寄りに石囲炉が設けられていました。(右下は炉の拡大写真)

一方、中期終末の住居の形は円形で石を並べて炉にする「石囲炉」が設けられていました。このように縄文時代中期中葉から終末の数百年の間に、住居のスタイルが変化していったことがわかります。

今回の調査で最も多く出土した土器は円筒上層式（b・c式）土器と呼ばれるもので、縄文時代中期前葉～中葉のものです。これらの土器は深いバケツ状の形で、縄文土器の中でも巨大化する土器の1つであり、非常に重量感があります。太い粘土紐を規則正しく器面に貼り付けることを最大の特徴としており、文様に立体感を出す演出がなされています。さらに粘土紐の間にも文様を施し、全面に文様が展開していきます。

是川遺跡に代表される縄文時代晩期土器の特徴を精巧・繊細とすれば、これらの縄文時代中期土器の特徴は大胆・豪快でしょうか？土器から当時の縄文人の持っていたダイナミックな気風を感じ取ることができます。（杉山 陽亮）



出土した土器 貼り付けた粘土紐の間には、縄文原体（土器に縄文を付ける撚り紐）を半月状に押し並べるものや、縄文原体の代わりに棒を突き刺した文様（刺突文）を並べるものがあります。

林ノ前遺跡の金属製品

(渡 則子)



是川遺跡は三遺跡の総称

是川遺跡といえば精巧な作りの土器や木製品・漆製品などが出土する縄文時代晩期の亀ヶ岡文化を代表する遺跡だと思っている方が多いようですが、これは是川遺跡のひとつである中居遺跡と呼ばれる遺跡のことです。

八戸市縄文学習館から西へ約 400 m、小高い丘の中腹に「是川遺蹟」の名前が彫りこまれた記念碑が建てられています。この石碑は今から 76 年前、大坂毎日新聞社社長本山彦一から揮毫と出資を仰ぎ、^{き だ さだきち}京都帝国大学の喜田貞吉が碑文を草し、八戸市郷土研究会により昭和 7 年 (1932)11 月に建設されたものです。

その碑文の中に「是川遺跡は、中居・一王寺・堀田の各地点が接しており、それぞれ異なる遺物を埋藏し・・・」と書かれています。現在、この三地点は中居遺跡、一王寺 (1) 遺跡、堀田遺跡として青森県埋藏文化財包蔵地台帳に登録されており、是川遺跡はその総称で呼ばれています。

何故総称で呼ばれるのかというと、それぞれ遺跡の年代が異なることもありますが、この三遺跡が、日本の考古学史上重要な役割を果たす遺跡となったからです。

中居遺跡 大正 15 年 (1926) 泉山兄弟により完全な形の土器や石器、多量の植物性遺物が出土する特殊泥炭層が発見され、昭和 4 年には大山史前学研究所による学術調査が行われ、出土遺物等が広く学会に知られるようになりました。

一王寺 (1) 遺跡 大正 15 年に東北帝国大学の^{は せ べ ことんど やまのうちの お}長谷部言人・山内清男により調査が行われ、バケツの形をした土器が多量に出土しました。この土器は、「円筒土器」と呼ばれ、この遺跡がきっかけとなり名

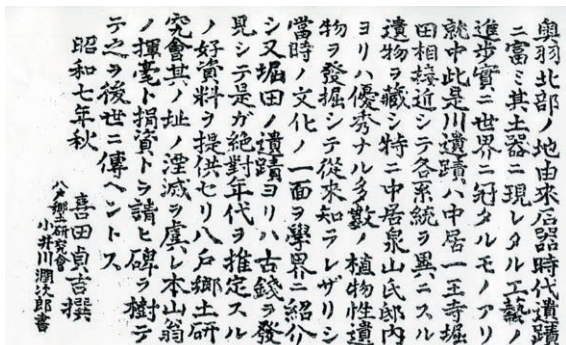


記念碑 記念碑の前に立つと是川遺跡が一望できます。

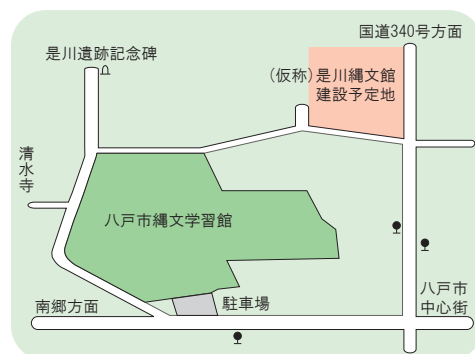
付けられたものです。現在も土器の編年に使用され、縄文時代前期を円筒下層式、中期を円筒上層式と言われています。

堀田遺跡 昭和 7 年 7 月、堀田を切り開いて県道を造る際に、竪穴から宋銭 (景德元宝) が出土しました。喜田貞吉は東北地方の縄文遺跡からたびたび古銭が出土することから縄文時代の終わりは地域差があり中世まで続いていた地域もあると考えました。碑文の中にも「堀田の遺跡より古銭を発見して是が絶対年代を推定する好資料」として書かれています。しかしこの考えに対し、山内清男が縄文時代の終末は全国ほぼ同時に終了し、地域差はないと発言しました。これが、昭和 11 年に雑誌「ミネルヴァ」で繰り広げられ、考古学上の一大論争 (ミネルヴァ論争) となったのです。今では考えられないことですが、当時はまともに議論されていました。

皆さんが是川遺跡を訪れる際は、遺物だけを見るのではなく、遺跡にも足を運び学史上のいきさつなどを頭に思い浮かべながら記念碑もご覧いただければと思います。 (村木 淳)



碑文 石碑正面下に銅板がとりつけられています。



記念碑案内図 縄文学習館より徒歩約 10 分。記念碑前にも駐車スペースがあります。

平成 19 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 19 年 11 月 17 日 (土)、八戸市総合福祉会館において平成 19 年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました。この報告会は、その年の主な発掘調査成果の報告と、出土した遺物の展示を行っており、今回は約 90 名の参加者がありました。

調査報告は、縄文時代中期から後期にかけての捨て場が見つかった一王寺 (1) 遺跡、縄文時代中期の大規模な集落が確認されている松ヶ崎遺跡の調査成果、平安時代の環濠をめぐらす大集落・林ノ前遺跡の調査成果から、豊富な金属製品を中心とする成果について行いました。また、今回は、平成 18 年度から始まった「縄文遺跡群」の世界遺産登録にむけた取り組みについて、これまでの経過と今後の予定について現状報告を行いました。

遺物展示は、報告した 3 遺跡の出土遺物を中心に、本号巻頭でも紹介した、新井田古館遺跡で出土の入れ子状の縄文土器 4 点も展示しました。(船場 昌子)



新井田古館遺跡出土縄文土器



遺物展示のようす

焼き物と遺跡 ～国産磁器が生産されたころ～



第30回民俗芸能の夕べ開催

八戸地方には、豊かな自然と北国の厳しい風土に育まれ、古くから庶民の生活に深く溶け込み、四季折々の祭りや年中行事のなかで伝承されてきた数多くの民俗芸能があります。

民俗芸能の夕べは、民俗芸能を保存継承している団体の発表機会を創出し、保存団体の活性化並

びに後継者育成を図るため、昭和53年度から開催しております。

平成19年度は、30回記念にあたることから、これまでご出演いただいた団体に対し感謝状を贈呈したほか、出演団体を7団体に増やして開催し、会場がほぼ満席となり、大盛況のうちに終了しました。
(村上 司)

日時：平成20年3月8日(土)

会場：八戸市公会堂文化ホール

出演団体

- 1 法霊神楽ほうりょうかぐら
- 2 高館駒踊たかだてこまおどり
- 3 大平大神楽おおたいだいかぐら
- 4 左比代虎舞さびしろ
- 5 浜市川神楽はまいちかわかぐら
- 6 中居林えんぶり
- 7 八戸小唄・八幡馬のうた愛好会



中居林えんぶり組上演のようす

鮫の神楽 DVD 完成 — 郷土芸能ビデオライブラリー事業 —

郷土芸能ビデオライブラリー事業は、八戸に伝承されてきた郷土芸能を劣化の少ないデジタル映像に保存し、次の世代に確かな形で伝えるため、平成19年度から始めた事業です。

平成19年度は、「鮫の神楽」の24演目を収録したDVDを製作しました。今後も、「神楽」「駒踊」「えんぶり」などを製作する予定です。



※製作したDVDは、市図書情報センター・南郷図書館・市視聴覚センターで視聴できます。お問い合わせは教育委員会文化財課まで。(Tel 0178-43-2111 内486)

鮫の神楽DVD収録内容

①『鮫の神楽1』平成20年1月に撮影したものです。

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|---|
| Disc1 | 1 四方堂権現舞 <small>しほうどうごんげんまい</small> | Disc2 | 5 剣舞 <small>つるぎまい</small> |
| | 2 番学 <small>ばんがく</small> | | 6 翁舞 <small>おきなまい</small> |
| | 3 三番叟 <small>さんばそう</small> | | 7 壇ノ浦鍛引 <small>だんのうらしこびき</small> |
| | 4 鳥舞 <small>とりまい</small> | | 8 墓獅子 <small>はかじし</small> |
| | | | 9 朝鮮国加藤清正虎狩 <small>ちようせんこくかとうきよまさとらがり</small> |

②『鮫の神楽2』

現在では演舞できなくなった演目について、昭和54年3月に撮影されたビデオテープからDVDへ再録したものです。

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| Disc1 | 1 岩扉開 <small>いわとびらき</small> | Disc3 | 11 羅生門 <small>らしようもん</small> |
| | 2 四季三番叟 <small>しきさんばそう</small> | | 12 関の扉小松姫道行 <small>せきとこまつひめみちゆき</small> |
| | 3 小獅子 <small>こじし</small> | | 13 鐘巻道成寺 <small>かねまきどうじょうじ</small> |
| | 4 山の神 <small>やまかみ</small> | | 14 伊吹山百足狩 <small>いぶきやまむかでがり</small> |
| | 5 三宝荒神 <small>さんぼうこうじん</small> | | 15 御祝 <small>ごいわい</small> |
| Disc2 | 6 曾我兄弟 <small>そがきょうだい</small> | | |
| | 7 丑若丸鞍馬入 <small>うしわかまるくらまいり</small> | | |
| | 8 五條橋千人切 <small>ごじょうのはしせんにんぎり</small> | | |
| | 9 安宅関勸進帳 <small>あたかのかせきかんじんちよう</small> | | |
| | 10 恋路初旅忠信 <small>こいじはつたびたのぶ</small> | | |

③『鮫の神楽3』

『鮫の神楽1』にアレンジ(カメラワークなど)を加えたもので、演目は『鮫の神楽1』と同じです。

是川縄文の里整備事業

●是川中居遺跡出土木製品復元製作

八戸市では、中居遺跡出土木製品（縄文時代晩期）の復元製作を平成 16 年度から実施しています。平成 19 年度は、藍胎漆器（壺）2 点・漆塗り弓 1 点・漆塗り腕輪 3 点・漆塗り櫛 4 点の復元製作を行いました。

この復元品は、平成 23 年度開館予定の（仮称）是川縄文館に展示・収蔵し、復元製作工程の映像記録とともに是川縄文人の工芸技術を広く紹介するために活用する予定です。



復元品（平成 16～19 年度製作）
製作：八幡平市安代漆工技術研究所

●是川縄文シンポジウム

同シンポジウムは、是川遺跡を P R するために、官民共同で実行委員会を組織し、平成 15 年度から実施しています。その最終年にあたる平成 19 年度は、12 月 2 日（日）八戸市公会堂文化ホールで開催いたしました。「縄文の祀り」をテーマに、基調講演・報告・全体討論を行い、縄文の精神世界を探る議論が交わされました。参加者は、約 300 名と盛況でした。是川縄文シンポジウムの内容は、それぞれ毎年記録集に掲載し、計 5 冊が刊行されました。



是川縄文シンポジウム2007『縄文の祀り』プログラム

講演/コーディネーター	小山 修三	吹田市立博物館館長
講 演	葛西 勲	青森大学考古学研究所所長
報 告	成田 滋彦	青森県埋蔵文化財調査センター副参事
報 告	小笠原 善範	八戸市博物館 主幹
パネラー	早川 和子	考古イラストレーター

シンポジウム記録集 2003～2007

●（仮称）是川縄文館（埋蔵文化財センター）

平成 20 年 2 月、（仮称）是川縄文館の建築と展示の実施設計が完成しました。同館は、八戸市縄文学習館から北西に約 200 m 離れた場所に建設され、是川や風張遺跡の出土品の展示などを通して八戸の優れた縄文文化を全国に発信し、市内の埋蔵文化財の整理・収蔵・調査研究等を行う施設です。建物外観は、「縄文時代の竪穴住居」や「漆の黒と赤」をイメージしたデザインとなっています。

（大野 亨）

《建設概要》

建築面積：2,636 m² 延床面積：約 4,600 m²
構 造：1 階 鉄筋コンクリート造 2 階 鉄骨造
駐 車 場：普通車約 100 台、大型バス 6 台、
身障者用 3 台

《建設スケジュール》

20 年度 造成及び建築・設備工事
21 年度 建築・設備及び展示工事
22 年度 展示及び外構・駐車場工事
23 年度 オープン（予定）



（仮称）是川縄文館外観模型

平成 19 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名		調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
補助事業 八戸市内遺跡発掘調査事業	田面木遺跡 第32地点	試掘調査	宅地造成	H19. 3. 12～3. 13	125㎡	古代
	塩入遺跡	試掘調査	宅地造成	H19. 4. 3	9㎡	縄文・古代
	酒美平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H19. 4. 6	0. 5㎡	縄文・古代
	酒美平遺跡②	試掘調査	倉庫建築	H19. 4. 6	0. 5㎡	縄文・古代
	野場遺跡 第1地点	試掘調査	駐車場建設	H19. 4. 13	9㎡	縄文
	上ノ沢遺跡 第5地点	試掘調査	福祉施設増改築	H19. 4. 13	11㎡	縄文・古代
	鳥館場遺跡 第1地点	試掘調査	個人住宅建築	H19. 5. 9	19㎡	縄文
	松長根遺跡 第1地点	試掘調査	個人住宅建築	H19. 5. 9	12㎡	縄文
	沢目遺跡①	試掘調査	宅地造成・宅地用道路	H19. 6. 21	10㎡	縄文
	湯ノ沢遺跡 第1地点	試掘調査	最終処分場建設	H19. 7. 25～8. 23	734㎡	縄文
	石橋遺跡①	試掘調査	携帯電話基地局の設置	H19. 7. 26	41㎡	縄文・古代
	石橋遺跡 第6地点	試掘調査	集合住宅建築	H19. 8. 23～8. 24	153㎡	縄文・古代
	沢目遺跡②	試掘調査	擁壁工事	H19. 8. 31	12㎡	縄文
	根城跡岡前館 第53地点	確認調査	個人住宅建築	H19. 8. 17～8. 31	180㎡	中世・近世
	根城跡岡前館 第54地点	確認調査	集合住宅建築	H19. 9. 3～9. 28	450㎡	中世・近世
	一王寺(1)遺跡 第11地点	試掘調査	範囲・内容確認	H19. 9. 5～10. 3	800㎡	縄文・古代
	西遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H19. 9. 20	25㎡	縄文
	上ノ沢遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H19. 9. 20	17㎡	縄文・古代
	中居遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H19. 9. 20	33㎡	縄文・古代
	野場遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H19. 10. 9	6㎡	縄文
	田面木遺跡 第33地点	試掘調査	長芋作付	H19. 10. 11～10. 16	325㎡	古代
	八戸城跡 第19地点	試掘調査	中央児童会館建築	H19. 10. 25～11. 7	47㎡	弥生・古代・近世
	重地遺跡	試掘調査	集合住宅建築	H19. 11. 26	147㎡	縄文
	稲荷後(3)遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H19. 12. 13	7㎡	縄文・古代
	雷遺跡	試掘調査	個人道路建設	H19. 12. 18	9. 5㎡	縄文・古代
	市子林遺跡 第14地点	本調査	長芋作付	H19. 4. 11～5. 11	473㎡	縄文・古代
	林ノ前遺跡	本調査	土取り・植林	H19. 4. 19～10. 2	600㎡	縄文・古代
	松ヶ崎遺跡 第13地点	本調査	個人住宅建築	H19. 6. 25～7. 13	160㎡	縄文
受託事業	田向遺跡	本調査	土地区画整理	H19. 4. 23～8. 31	6, 149㎡	縄文～近世
	田向冷水遺跡	本調査	土地区画整理	H19. 4. 23～8. 31	6, 248㎡	旧石器～近世
	新井田古館遺跡 第18地点	本調査	集合住宅建設・宅地造成	H19. 5. 1～6. 29	2, 900㎡	縄文・古代・中世

《調査事務局》（平成 19 年度）

八戸市教育委員会

教 育 長 松山 隆豊

教 育 部 長 林 隆之介

教育部次長 三浦 和行

文化課長 工藤 竹久

《埋蔵文化財グループ》

副参事兼 GL 佐々木 浩一

主 幹 村 木 淳

主査兼学芸員 渡 則 子

主事兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 杉山 陽亮

主事兼学芸員 船場 昌子

《縄文の里推進グループ》

副参事兼 GL 竹洞 一則

主 幹 宇部 則保

主 査 大 野 亨

主 査 久 保 伝

主 事 佐々木 伸也

《文化振興グループ》

副参事兼 GL 清川 定吉

主 幹 外 館 一良

主査兼学芸員 小保内 裕之

主 査 村 上 司

主 査 高 森 大輔

主 事 佐々木千佳子



《平成 19 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 116 集 新井田古館遺跡

第 117 集 八戸市内遺跡 25

第 118 集 田向冷水遺跡Ⅲ

掘りday はちのへ 第 11 号

発行年月日 2008 年 5 月 30 日

編集・発行 八戸市教育委員会文化財課

〒 031 - 8686

青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号

TEL 0 1 7 8 (4 3) 9 4 6 5 (文化財課直通)

E - m a i l bunka@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/

index.cfm/12,0,43,64.html

(八戸市ホームページ)

印 刷

印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 94.5 円